

親の対応で子供が変わる～3つの対応例～

では、この時の親の対応として、3つの例を挙げますので、自分がやるであろうと思う対応と同様のものを選んでください。

- ①「どうして濡らしてきたの？」と叱る。
 - ②「冷たかったでしょ？」と着替えさせながら、その時の様子を聞く。
 - ③何も言わないし、何も聞かない。
- さて、どの対応を選ばれましたか？

①の子供は、だんだんと新しいことに挑戦する意欲を失っていくでしょう。叱りつけることで、親の怒りは収まっても、子供の心には、悲しみと後悔の思いしか残りません。

②の子供は、着替えをした心地よさと、母親の優しさを感じながら、自分のとった行動を冷静に反省すると思います。そして、次は、「注意して行動しよう」という気持ちが芽生えるでしょう。このような失敗は、次につながる失敗です。失敗は行動した証です。子供にとっては、このような日常での失敗経験により、生きていく知恵が育まれます。この知恵は、自分だけのものではなく、悲しみの中にある友だちへの思いやりの心にもつながっていきます。思いやりの心を育てるには、日常の親の言動が大きく影響してきます。

③の対応は、申し訳ありませんが、問題外と考えています。

※ただし、それまでのお子様への指導過程を踏まえて、あえて、そのような対応をしたのであれば、また、これからどうしていくのかという方向性がある程度明確になっているのであれば、それはそのご家庭に適した対応であると考えています。

色々とお忙しい中での子育ては本当に大変だと思います。しかし、保護者の皆様の言動の一つ一つが、子供たちの心に残り、その時は理解できなかったとしても、いつか、その意味がわかる日が来ると思っています。そして、それは、お孫さんにも生かされていくのではないのでしょうか。

保護者の皆様が子供だったとき、親から言われた（指導された）ことを基に、お子様をお育てになっていることが多々ありませんか？もちろん、「そうはされたくなかった」というような、反面〇〇という指導もあるかもしれませんが、いずれにしても、親の子供への影響は大きいと考えています。

子供が大人になってから振り返ってみると、“子育てができる”期間は、とても短いです。その貴重な時期を、ぜひ楽しんでください。